

# やまゆりニュース

「やまゆりニュース」第22号 発行日：平成29年6月1日  
 発行元 認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター  
 〒215-0021 神奈川県川崎市麻生区上麻生1-11-5  
 TEL. 044-951-6321 FAX. 044-951-6467  
 発行人：植木昌昭 編集人：佐々木直子

## 川崎市麻生区市民活動支援施設 麻生市民交流館やまゆり

### あつというまに、開館10周年に

麻生市民交流館やまゆり（以下「やまゆり」）は平成29年4月に開館10周年を迎えた。同館を管理運営する「認定NPO法人あさお市民活動サポートセンター」は5月20日（土）に総会を実施し、活動を支援していただいている正会員の皆様に、平成28年度の活動内容と29年度の活動計画を報告させていただいた。

#### 主な報告内容

① 利用登録団体数は667団体となり、利用者数も2万2千人以上、利用率も90%以上と安定した数字をここ数年残している。

② 「サロン文化の創造」というテーマを実現するために、技術集団「やまゆりテック」がうまれ、音響・照明など舞台演出を担当。新たにミニ劇場的な活用も増えてきた。

③ 委託事業として「寺子屋事業」を栗木台小学校で、市民館、社会福祉協議会と三者連携して「市民活動団体検索サイト」を開始した。

④ 麻生区の花「ヤマユリ」を冠に頂いているので、同館の周囲に「やまゆり」の花を咲かせたいという夢があったが、「ヤマユリでいっぱいのかい」が見事に花を咲かせた。

⑤ 日々の運営を担当するスタッフは52名となり、今年も9月に公募を行い、新たな仲間を募る予定としている。またプレミアムスタッフという、都度、業務をサポートするグループも生まれた。

これらの実績を踏まえ、川崎市で6番目の認定NPO法人として、支援いただく会員は185名となった。

「あなたの書く力は地域を動かす力」がありますと、活動を支援する「あさお区民記者クラブ」も取材対象を区民記者に伝えていただくサポートメンバーをスタートさせた。

このようにして、区民の力で支えていただいている同館の運営に、なお、一層の支援をお願いします。

理事長 植木昌昭

#### やまゆり利用実績の推移

年度	会議室(回数)		印刷(枚数)		利用者数 (人数)	利用登録 (団体数)
	平日(夜間)	土日・祝	製版	印刷		
28	1,222(359)	456	5,357	760,851	22,347	667
27	1,254(379)	458	5,639	865,167	21,963	647
26	1,223(372)	463	5,967	918,786	23,250	619
25	1,089(236)	397	6,908	1,014,658	22,125	596
24	1,016(181)	340	5,405	945,540	21,309	576
23	1,022(158)	359	5,212	952,152	20,813	542
22	946(149)	336	5,074	930,486	20,185	510
21	935(96)	316	5,299	964,275	18,897	466
20	874(118)	149	5,212	802,303	16,821	421

### 目次

#### A 安心 安全

緑明でも犯罪、事故には要注意

#### S サプライズ

水害から暮らしを守る！「巨大トンネル」

#### A アミューズメント

笑いで地域を元気にしたい

#### O おもしろ話

早野の龍ヶ谷池

#### ● やまゆりからのお知らせ

平成29年度「地域」コミュニティ活動支援事業」決定





## 緑萌えても犯罪、事故には要注意

4月の入学、入社などから2ヶ月。慣れから気の緩む頃だが、麻生警察署松尾生活安全課長と交通課交通安全担当田中さんに留意点を伺った。

### ●振り込め詐欺は留守番電話で撃退

「振り込め詐欺は依然多い。予防には留守番電話にし、電話に出ないのが効果的です。また、犯人が現金化できないよう、金融機関と協力し多額の預金引出しは小切手を利用することを勧めています。『麻生セーフティメール』でも情報提供しているので、ぜひ利用していただきたい。」とのことだった。(注1)

### ●小学校入学前後に安全教育を

統計では歩行中の交通事故死者数は①7歳児が突出して多い(ほかの年齢の2〜2.5倍)。  
②小学校入学から登下校時の事故が増加するが、登下校時以外も7歳児の事故が最も多い(注2)。  
③そのため、入学までによく指導しておくことが重要、とされている。

麻生警察署管内でも同様の傾向があり、小学校入学までの安全教育が重要だが、その際、以下の点に気をつけてとのことだった。

(1) 通学路を親子で歩き、親の視界でなく子どもの視界で見えるもの、見えないものに気をつけ、わかりやすい言葉で指導する。

(2) 横断歩道を渡るときは、周りを確認して。また、右折、左折の車だけでなく直進車にも注意する。

麻生区は治安が良いといわれるが、痴漢、空き巣などの犯罪が多く発生しているという。警察も相談のつてくれるので、さらに安全、安心な地域にしたいものである。

### (注1)

麻生セーフティメール:麻生区役所から、スマホ、パソコンなどに犯罪、火災、災害などの情報を無料(通信料金は有料)で配信するシステム。登録は①空メールを

「entry@k-

mail.tokami.city.kawasaki.jp

(送信) ②登録先のログインID、パスワードの記載のあるメールが届く ③氏名等必要事項を記載し

②に返信。

以上で登録終了。

### (注2)

平成23年〜27年の全国データ。公益財団法人交通事故総合分析センター「交通事故分析レポートNo.116」(平成28年6月発行)から抜粋。

### DATA

#### 麻生警察署

連絡先: Tel. 044-951-0110(代表)

所在地: 川崎市麻生区古沢86-1



取材・文 区民記者 仲原 照男

## S サプライズ



恩廻(おんまわし)公園調節池の巨大トンネル  
高さ16.5m、横幅15.4m  
(写真提供: 神奈川県川崎治水センター)

## 水害から暮らしを守る! 「巨大トンネル」

池」が建設された。これで、1時間間に60メートルの大雨(おおよそ10年に1度の確率)が降っても氾濫が防げるようになった。堤防を越えた洪水は取水庭に流れ込み、流木や大きなゴミなどを取り除くスクリーンを通り、トンネルに通じる流入水路に入って、立坑を流れ落ちてトンネルに貯留される。溜まった雨水は洪水後にポンプで鶴見川に排水される。

2008年8月の大雨のときには、堤防を越えて雨水がトンネルに流入し氾濫を防ぐことができた。

管理棟1階には、展示室があり恩廻公園調節池の構造や鶴見川周辺の自然などが紹介されている。(月曜日と年末年始は休館)

管理棟1階には、展示室があり

柿生駅からほど近い鶴見川沿いにある「恩廻公園調節池」には、ビル15階に相当する地下に、断面積が東京湾アクアラインよりも大きい総延長約600メートルの巨大トンネルがあるのをご存じだろうか?

貯水量は約11万立方メートルあり、これは25メートルプールの約330杯分に相当する。

近年、鶴見川流域周辺の宅地開発などが進んだために、地表がコンクリートなどで覆われて、大雨が降ると雨水は一気に鶴見川に流れ込み、氾濫を引き起こすようになった。このために、1989年に流域を洪水の被害から守るため「鶴見川新流域整備計画」が策定され、1993年から2003年まで10年の歳月を掛けて「恩廻公園調節



恩廻公園調節池の全景  
(写真提供: 神奈川県川崎治水センター)

取材・文 区民記者 上治 信義

# アミューズメント



## 笑いで地域を元気にしたい

朝の公園に二つの人影。聞こえてくるのは軽妙なやり取り。アマチュア漫才コンビ「ザ・ショウマンU&M」の練習風景だ。こうして磨いた芸を、麻生区をはじめとする川崎市内の福祉施設などで披露している。ほとんどがボランティアながら、引く手あまたで大忙しの活動を支えているのは「笑いで地域を元気に」の思いだ。

仲間と結成したパフォーマンス集団「川崎セブンスター」(別掲)も活発に活動中だ。「笑いはコミュニケーションを非常に円滑にすること」とはウメツチが常々感じる。若年認知症患者の集まりで「観客の方から、こんなに笑ったのは久しぶりと、涙を流して握手を求められました」と感激の思い出を語るのはマッキー。「笑えば人は幸せになる」と実感しつつ、あちこちに幸せを配りに行く日々だ。

マッキーこと牧野克己さん(多摩区在住)と、ウメツチこと梅本誠さん(川崎区在住)。高校時代に落語家を志したこともあるマッキーが会社勤めを終えた後、



マッキー(左)とウメツチの熱演。必ず盛り込む地域ネタはいつも大受けだ。

2013年にコンビを結成して翌年デビューし、2年前からはウメツチが二代目の相手となった。台本も書くウメツチの本業は行政書士。忙しい合間を縫って双方の中間地点である高津区の公園で練習に励み、市内の高齢者施設、学校や商店街、アマチュア落語の会などで幅広く公演活動が続けてきた。演目は20ほどあるが、演じる場所にに応じて下調べをし、それぞれの地域ネタを盛り込む。最初に施設公演を行った麻生区との縁も深い。

### ●川崎セブンスター

ザ・ショウマンU&Mが麻生区のデイサービス施設で公演したとき、仲間の演者に声をかけたことから誕生。川崎7区を星のように輝かせたいと名づけた「川崎セブンスター」には漫才のほか、歌謡ショー、フラダンス、講談、腹話術、民話朗読、手品の演者があり、高齢者施設訪問を中心に活動している。この4月には初の一般公演を麻生市民交流館やまゆりで開催した。代表は梅本誠さん。川崎セブンスター、ショウマンとも問い合わせは以下へ。  
Tel.090-8496-8452  
Mail plum.tree417@gmail.com

取材・文 区民記者 佐藤次郎

# おもしろ話

## 早野の龍ヶ谷池

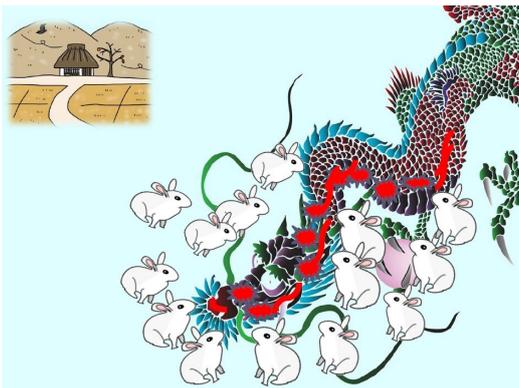
りゅうがやとのいけ

麻生にはいくつもの面白い民話がある。鶴見川にまつわる「河童の詫び証文」(本紙(2012年4月号)で紹介した。今回は、早野にある「龍ヶ谷池」にまつわる伝説を紹介しよう。

昔むかし、里に父親と娘が住んでいた。娘は、村で評判のきりょうよしだった。娘はある日、山で蛇がウサギを呑みこもうとしているのを見て「わたしをあげるからウサギを助けて」と頼んだ。助かったウサギは喜んで山に帰っていった。

父親も、畑で蛇がカエルを呑みこもうとしているのを見て「なんでもやるからゆるしてやれ」と頼んだ。蛇は「じゃ、おまえの娘をくれ」と返した。父親は、まさか蛇が娘を持っていきはしまいと思っただけで「ああ、いいさ」と言ってしまった。その晩、家の戸をトントンとたたいた者がいた。親が出てみると、若い男が立っていて「約束どおり、娘をもらいにきた。よこせ」と言う。父親は「ちよつと待ってくれ、七日間だけ待ってくれ」と言い、帰ってもらった。七日が過ぎると、また、戸をたたいた音がした。戸を開けると、龍が立っているではないか。驚いた父親は「だめだ」と言っただけで戸をかたく閉

めた。少したつと、外でドタンバタンと大きく激しい音がした。娘と父親は、あまりの恐ろしさに生きた気持ちはせず震えていたが、そのうち、もの音が静かになった。「はて…」と思った娘と父親が、おそろおそろ外をみると、そこには血だらけになって死んでいる龍がいて、その周りをたくさんウサギが飛び回っていた。その後、龍をかわいそうに思った娘と父親は、龍をいねいに葬ってやった。そこに水が溜まって池ができた。それが「龍ヶ谷池」だとき。(注)



池の波紋に、もしや龍が…、と思いを馳せるのも、むかし話のふしぎな力

(注)参考:早野郷土誌「七つの池とともに〜ふるさと早野を語る〜」

取材・文 区民記者 石崎純也

平成29年度「地域コミュニティ活動支援事業」決定

●おもちゃと遊びで  
世代間コミュニケーション

おもちゃと遊びの会

おもちゃ作りと遊びを通じて、子どもから大人までの世代間を超えた「コミュニケーション作りを図り、これを地域の人々に広めて行きます。手は脳の一部と言われており、その手を使ってもものつくりをする事は、子どもたちの健やかな成長につながります。また、伝統的な遊びや表現遊びを学ぶことは、日本古来の文化に触れ、遊びの持つ効能や必要性を知ることにつながります。7月30日(土)やまゆり「第1回」おもちゃと遊びまつり」を開催。



吉田幸雄さん

●平和を願い、実現するための集い

平和を願う会

麻生区の住民、とりわけ子どもたちに平和の尊さを伝え、平和を維持するために立ち向かおうと若者を育てていきたい。とりわけ、生存している被爆体験者の話を、直接、若者たちに伝え、核兵器のない世界を創ることの大切さを共有したい。8月26日(土)27日(日)「やまゆり」開催。原爆写真のパネル展示と解説、折り鶴をつくる共同作業、アニメ映画上映会、朗読劇、講演会などを展開し、おおくの人と交流したい。



萩坂心一さん

●ダンス・演劇・音楽のワークショップと舞台公演

山猫団

麻生区に拠点を置く舞台芸術集団「山猫団」の演出指導のもと、チンドン屋さんの「ジュンマキ堂」と一緒に、公費で集まった市民とともに、ダンス・演劇・音楽のワークショップとリハーサルを経て舞台公演を上演する。舞台芸術に関わるプロと市民が共に一つの舞台を作り上げる体験を通じて、地域への芸術文化の普及を目的とする。上演は2018年3月、岡上公会堂を予定。



長井江里奈さん

「心に星を」市民プロジェクト

●「心に星を」

市民プロジェクト祭り

障がい者など、さまざまな個性と共生できる心を育もう！この「心の星」市民プロジェクト。その活動を多くの方に知ってもらうイベントを、8月20日(日)10時~11時に「おまつり」を開催する。1階では午前中に映画上映「銀河の雫」(山元加津子監督)「午後は「あらら企画」一かなりあ合唱団「川崎セブンスター」などによるイベントを開催。2階では、3つの親子向けワークショップを開催。



成澤布美子さん

グループ とも

●そうだ！「はなもも」へ行こう2017

地域に住んでいる人が、誰でも気軽に立ち寄れる居場所。「ミニミニ」ワークショップの場として、さまざまな人達との交流と笑顔を地域に広げ、多くの人たちに参加してもらおうが目的。対象者は、赤ちゃんからお年寄りまでどなたでも。8月10日(金)10時~16時(囲碁、将棋、麻雀(週1回)絵手紙(月2回)など)を開催。季節に対応したイベント、認知症学習会なども開催。



石井栄子さん

あらっと新百合ヶ丘

●ふらっと親子で新百合ヶ丘を楽しもう！

新百合ヶ丘は利便性がよく、お出かけも新宿や横浜へすぐ出かけることができるため、日常生活だけでは麻生区に住んでいてもなかなか街と繋がること少ない現状がある。街を好きになるためには、まずは自分の街を知ること。麻生区、麻生区近郊に住む街の方や農家の方に教えて頂きたい。親子で楽しめるワークショップを通して、農育・食育を育むことも大切に、街の魅力を再発見していく。



中村ふみよさん

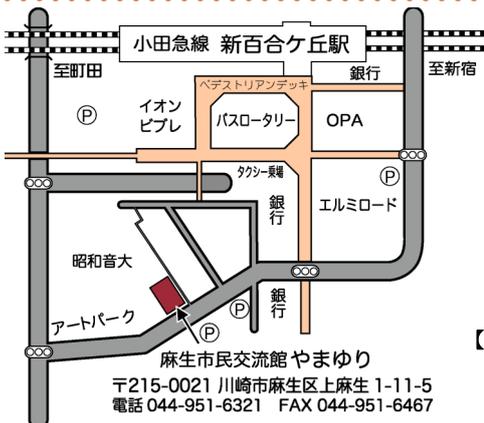
あさお区民記者

区民による、区民のための  
情報発信を目的に活動。

区民記者は「やまゆりニュース」掲載記事の企画構成・取材撮影を担当しています。過去の取材記事はホームページに掲載しています。

<http://www.asao-ku.net/yamayuri-news.html>

●区民記者&サポートメンバー募集中！詳しくは  
[info@asao-ku.net](mailto:info@asao-ku.net)にお問い合わせください



【開館日】  
月曜～金曜 9時30分～17時  
※平日の夜間、土曜・日曜、  
祝日も予約すれば利用可。  
休館：年末年始、施設点検日

【アクセス】  
小田急線「新百合ヶ丘駅」  
南口から徒歩4分

【ホームページ】  
<http://web-asao.jp/yamayuri/>